

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

猪名川町教育委員会

《調査の目的》

令和6年4月18日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。
この調査の目的は、以下のとおりです。

- （1）義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- （2）学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- （3）そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

《実施の状況》

- （1）調査の対象 猪名川町内の小学校第6学年の全児童（6校258名）
猪名川町内の中学校第3学年の全生徒（2校国語248名、数学247名）
- （2）調査内容 ①教科に関する調査
小学校第6学年・・・国語、算数
中学校第3学年・・・国語、数学
②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

《教科に関する調査について》

【調査結果の見方】

- (1) 「町平均」の数値は、令和6年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。
- (2) 「全国平均」の数値は、令和6年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小・中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

■小学6年生

教科	町平均正答率 (%)	全国平均正答率（公立） (%)
国語	62	67.7
算数	60	63.4

■中学3年生

教科	町平均正答率 (%)	全国平均正答率（公立） (%)
国語	58	58.1
数学	55	52.5

■小学6年生（国語）

		対象問題数 (問)	町平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
全体		14	62	67.7
学習 指導 要領の 内容	知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	55.1	64.4
	知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項	1	84.1	86.9
	知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項	1	71.7	74.6
	思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと	3	56.3	59.8
	思考力、判断力、表現力等 B 書くこと	2	62.0	68.4
	思考力、判断力、表現力等 C 読むこと	3	64.5	70.7

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	50.0	62.3	3.5	2.0

3一 学習指導要領の内容の「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項の問題。正答率の差は、－12.3ポイント。正答は③「巢は」だが、①「もやが」と回答した児童が15.1%、④「まぶしく」と回答した児童が27.9%だった。①を回答した児童は、文中における語句の関わりを正しく捉えることができなかったと考えられる。④を回答した児童は、主語を理解できておらず、直前の言葉である修飾語を選択したと考えられる。

文中における主語と述語との関係を正しく捉えられるようになるためには、低学年の段階から主語の表し方は「～は」「～が」「～も」のように様々あることを学んだり、主語が何かを意識して文章を読み書きしたりする学習に取り組む必要がある。

②正答率が低かった問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
1二 (2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	49.6	52.9	1.2	0.7

1二(2) 学習指導要領の内容の「話すこと・聞くこと」の問題。正答率は、49.6%。正答は②だが、①と回答した児童が29.1%いた。これは、【和田さんに届いたメールの内容】を引用して話している

ととらえた児童や、相手の話を受け止めている状況を引用していると間違い、判断した児童もいたと考えられる。正答率が低かったことから、目的や相手、状況などを踏まえ、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意し、自分の考えが伝わるよう表現を工夫することに課題があると考えられる。

相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考え、目的や意図に応じて、資料の順番を変えたり、適切な時間や機械での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けるような取組が必要である。

③無解答率が高かった記述式の問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。	61.2	72.6	17.8	12.6

3三 学習指導要領の内容の「読むこと」の問題。本設問は、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由を条件に合わせて書く必要がある。

無回答率は、17.8%である。無回答率が高かったことから、時間切れで本設問まで辿り着かなかった児童がいることが考えられる。また、誤った回答から、「心に残ったところ」を言語化できなかった児童や、人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができなかった児童、「心に残った理由」を書き分けることができなかった児童がいたと考えられる。

文学的な文章を読む学習においては、文章を読む観点を焦点化することや、場面によって登場人物の行動や会話がどのように変化したかといったことを一緒に読む学習に取り組む必要がある。

■小学6年生（算数）

		対象問題数 (問)	町平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
全体		16	60	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	64.1	66.0
	B 図形	4	60.6	66.3
	C 測定	0		
	C 変化と関係	3	46.6	51.7
	D データの活用	4	60.9	61.8

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

問題番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	46.1	56.9	5.0	3.4

2 (1) 学習指導要領の内容の「数と計算」の領域の問題。正答率の差は、 -10.8 ポイント。

正答は「5600」だが、5600と記述できている児童は75.2%いた。全体の29.1%は、答えは出ているが、求め方を書く際に必要な式や言葉を満たしていない、または無回答の児童であった。このことから、乗法の計算方法については理解できているが、計算式と問題場面の図や式とを関連付けて考えることに課題があると考えられる。

機械的に筆算をして答えを求めるのではなく、積の意味や求め方を、図や言葉を活用しながら説明する学習に取り組む必要がある。

②正答率が最も低かった問題

問題番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	21.7	31.0	2.3	2.4

4 (3) 学習指導要領の内容の「変化と関係」の領域の問題。正答率は、21.7%。

どちらが速いかを判断するためには、両者の速さを求めて比較する、もしくは本設問のように道のりが等しい場合、かかった時間が短いほど速いという速さの概念を理解し、わけを記す必要がある。

本設問中で、かなたさんの方が速いと判断できている回答は、75.7%いた。しかし、全体の36.8%が歩いた道のりが等しいことには言及しているが、かかった時間を比較し、速さについて説明することができていない。

変化と関係の学習の際には、道のり÷時間を用いて速さを求めることで、二人の歩く速さを比較できることを確認し、他にも二人の歩く速さの比べ方を求めることができないか、考察する活動が必要である。考察する際には、求め方を記すためのモデルを教師が示す等、全ての児童が自分の考えを表

現できるよう、スモールステップで経験を積ませていく学習が必要である。

③無解答率が高かった問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
3 (3)	直径 22 c m のボールがぴったり入る箱の体積を求め る式を書く	29.1	36.5	10.5	9.8

3 (3) 学習指導要領の内容の「図形」の領域の問題。本設問の無回答率は 10.5 %、また正答率は 29.

1 %で、この問題を正答した児童の多くは、他の問題においても正答率の高い児童であった。

この問題を解くためには、問題文にある「ボールがぴったり入る箱」という言葉から、「ボールの直径の長さ」と「立方体の辺の長さ」の関係を正しく捉える必要がある。無回答が高かったことから、立方体の 1 辺の長さの記載がないことで、本設問を解く術を見いだせなかったと考えられる。

図形の学習の際には、図形を観察するなどの活動を通して図形の知識や図形を構成する要素を身に着付けること、今まで学習した知識と図形とを関連付けて考える学習をすること、図形を構成する要素を見出し必要な情報を判断する学習に取り組むことが必要である。

■中学3年生（国語）

		対象問題数 (問)	町平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
全体		15	58	58.1
学習 指導 要領の 領域等	知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	63.2	59.2
	知識及び技能 (2) 情報の扱い方にに関する事項	2	51.4	59.6
	知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項	1	71.4	75.6
	思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと	3	60.5	58.8
	思考力、判断力、表現力等 B 書くこと	2	66.3	65.3
	思考力、判断力、表現力等 C 読むこと	4	46.5	47.9

【課題のあった問題】

①学習指導要領の内容の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の領域の問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
22	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	66.9	75.2	0.8	0.6

22 国語15問中、全国と比べて正答率の差が最も大きかった問題。正答率の差は、－8.3ポイント。具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題。誤答としては、内容を具体的に言い換えていることを捉えることができていない解答を選択していることが最も多かった。下線部①の「できそうです」という文末と、選択肢の「推測」という語句とを結びつけ、下線部①の内容について推測したことを下線部②で述べていると誤って捉えたものと考えられる。

具体と抽象の概念を理解するには、「具体」、「抽象」という言葉の意味を確認するだけでなく、身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げて、それぞれの概念と実際の事柄とを結びつけて理解することが大切である。

■中学3年生（数学）

		対象問題数 (問)	町平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
全体		16	55	52.5
学習 指導 要領の 領域	A 数と式	5	53.5	51.1
	B 図形	3	40.6	40.3
	C 関数	4	62.2	60.7
	D データの活用	4	58.4	55.5

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	64.4	73.1	2.8	4.2

- 5 学習指導要領の内容の「データの活用」の領域の問題。正答率の差は、－8.7ポイント。簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる問題。確立を用いて不確定な事象を捉え考察する場面では、同様に確からしいことに着目し、起こり得る場合の数を基にして確立を求めることが大切である。

②無解答率が高かった記述式の問題

問題 番号	問題の概要	正答率 (%)		無解答率 (%)	
		猪名川	全国	猪名川	全国
9 (1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを、三角形の合同を基にして証明する【記述式】	25.9	25.8	25.5	33.6

- 9 (1) 学習指導要領の内容の「図形」の領域の問題。筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題。図形の性質を考察する場面では、予想した事柄が成り立つことを論理的に考察し表現することや、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見出すことが大切である。
- 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

《質問紙調査について》

児童生徒質問紙調査は、調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。小学生63問、・中学生65問の質問項目について調査が行われました。

それぞれ調査項目ごとの猪名川町と全国の回答結果の中から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が高かったものから、「良好な結果として捉えられる点」を、肯定的な回答の割合が低かったものから、「猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点」を分析し、以下に挙げています。

【小学校6年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・ 困りごとや不安を、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・ 家には、101冊以上本がある(雑誌、新聞、教科書は除く)。
- ・ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けたり、生かしたりすることができると思う。

【小学校6年生・中学校3年生】

猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点

- ・ 算数・数学・理科への関心・意欲。
- ・ I C T機器の活用。
- ・ 家庭学習の定着
- ・ 各教科での学びを生かし、自分の考えをまとめる活動。
- ・ 自ら課題を立て、情報を集め、調べたことを発表する活動。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

令和6年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）の結果及び過去数年間の同調査の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「読むこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・算数では、「図形」「変化と関係」の領域に課題がある。[小学校]
- ・2教科とも無解答率が高く、記述式問題に課題がある。[小学校]
- ・国語では、「情報の扱い方に関する事項」の領域に課題がある。[中学校]
- ・「毎日1時間以上、家庭学習している」児童生徒の割合が低い。[小・中学校]

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善支援。
- ・授業力向上や学級づくりのための教員研修の充実。
- ・タブレット端末やICT機器、デジタル教材の効果的な利活用。
- ・いなぼう学習タイムによる基礎・基本の定着。
- ・「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」の推進。
- ・学生や、地域住民による学校支援ボランティアの派遣。

■家庭学習の定着

- ・放課後学習の充実・拡充。
- ・宿題の量、出し方の工夫や予習復習の推進。